

S56年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・搬出等も実施。



基本情報

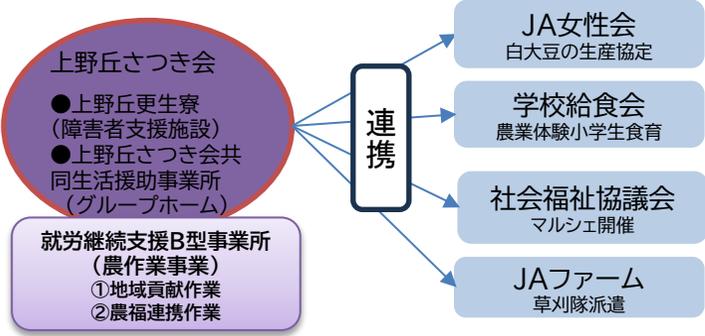
設立:S43年/農福連携取組開始:S56年

概要

主力商品
 (農作物)じゃがいも、たまねぎ、白大豆、米、すいか
 (加工品)米粉、米粉を利用した穀物パンケーキミックス粉

特徴的な取組
 環境保全型農業

体制図



TEL:078-958-0252/Mail:info@uenooka.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

きっかけ

昭和56年
 農福連携という言葉が使われる前から、利用者の職業訓練の一環として農作業を実施。

取組

- 人を耕す
- 職業訓練として50年以上の実績があり、現在は、知的障害者35名が農作業を実施。
 - 草刈班、米作業班、調整班、加工班とチームを組んで活動。班内にはリーダーを設けることなく、誰もが自分の役割を果たせるように工夫。
- 地域を耕す
- 地元の森林組織から依頼を受け、土手や法面の整地、水路の溝切り、竹林の伐採作業を実施。荒廃農地等での作業受託は水稻約13ha、野菜約1ha。
 - 公益財団法人の助成金を活用してライスセンター機材を設置したことで、稲作全般の作業を行うことができるため、地域から依頼も増え、地域の農地の維持に貢献。
 - 水田活用の直接支払交付金を活用して、白大豆を生産。
- 未来を耕す
- 地元の田畑の維持管理をする上で隣接する竹山林の整備作業に役立てるため、共同募金会の配分金を活用してウッドチップパーを導入し、樹木のチップ化や竹の堆肥化を行う。
 - 「米粉倶楽部」に登録し、米粉を販売。地域の喫茶室、カフェから地産地消を推進する目的で米粉が使用されるなど、販路が拡大。

成果

平均工賃月額	農作業に関わる障害者数	農業売上	農地面積
5,000円(S56) →18,700円(R5)	20人(S56) →35人(R5)	800千円(S56) →21,812千円(R5)	2ha(S56) →14ha(R5)

- 神戸市都市局や社会福祉協議会主催のマルシェに積極的に参加し、自家栽培野菜を販売。利用者自身が対面で販売することで農福連携の発信につながるほか、利用者の生きがいを創出。また、地域からの要望に応える形で、マルシェの参加を継続しており、収益も向上。
- JA女性会との連携による「北神みそ」の原材料の白大豆生産及び、社会福祉協議会との連携による「ごはんプロジェクト」、「教育ファーム」の設置による子どもたちへの食育など、地域活性化に寄与。